

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和3年1月26日 VOL. 150

支え合いの地域づくりセミナーを開催しました

～コロナ禍だからこそ必要な人と人との絆づくりについて～

令和3年1月20日(水)藤枝地区交流センターを会場に、「支え合いの地域づくりセミナー」【主催：藤枝市、藤枝市社会福祉協議会】を開催し、市内で地域づくり活動を行う人など80名が参加しました。

まず地域包括ケア推進課から、全国的に夫婦のみ世帯や単独世帯が増加しており家族間の支援が難しくなっている現状や地域互助の支援の必要性を説明しました。パネルディスカッション後には、藤枝市社会福祉協議会から、サロンや会食会の運営を行う上での感染予防の注意点やポイントを説明しました。

コロナ禍において高齢者の閉じこもりや地域との繋がりの希薄化の問題が加速する中、人と会って話をすることの重要性を再認識する機会となりました。市内でも多くの地域づくり団体が、新しい開催方式を探りながら活動を続け、人と繋がりたいという会員の思いに寄り添っています。



▲間隔に配慮し交互に
座席を配置

▲牧田課長挨拶



藤枝地区ふれあい
会食会
亀澤 幸子さん



下当間ふれあいサ
ロン一五の会
望月 一彦さん



みんなの居場所
くつろぎカフェ
かいらハウス
今野 智子さん

【紹介された活動内容や工夫の一部】

- ・会場を会議室でなく広いホールに変更し、2つずつ席を空けて介護予防の体操を行う
- ・会食はやめてお弁当を渡す。自宅に帰ってから食べてもらうことを徹底するために、あえてお箸をつけていない。
- ・テイクアウトの弁当を作って宅配。ハガキや写真を添えて、高齢者の顔を見ながら「しっかり食べてますか?」「笑顔でいましょね」などと声掛け。

参加者の感想から

- ・コロナ禍における人との繋がりの必要性、大切さを改めて感じました。
- ・ちょっとした一言で生きる力を与えることができます。「笑顔で挨拶」大事ですね。
- ・コロナ禍でもしっかり対策をして、休まず地域活動を進めていきたい。皆待っている!
- ・ボランティアが尻込みしたくなる状況ですが、会員さんは想像以上に喜んで参加してくださいませ。工夫しながら活動を続けていきたいと思えます。

静岡県生活支援コーディネーター養成研修で事例報告



松下 武人 第1層コーディネーター(地域包括ケア推進課 地域支援係長)が、1月15日(金)に静岡県ほか主催の「令和2年度生活支援コーディネーター養成研修(WEB開催)」に登壇し、藤枝市における第1層・第2層を中心とした生活支援の推進体制の説明や、庁内他部局や関係機関等との連携による取組事例として、高齢者に関する相談フローの作成や口腔体操の普及、移動支援研究会の立ち上げによる住民主体の移動支援の推進などについて報告しました。

バックNo.の検索は

